

即時義歯製作による力と炎症のコントロール

吹譯 景子

福岡県開業 ふきわけファミリア歯科
連絡先：〒830-1221 福岡県三井郡大刀洗町高樋2498-1

キーワード：即時義歯，力と炎症のコントロール



臨床経験年数

2002年3月日本歯科大学新潟歯学部卒業。九州大学大学院入学・卒業・口腔病理学教室特別研究員を経て、非常勤勤務。2015年3月ふきわけファミリア歯科を主人（院長）と開院。2009年4月よりWDC所属。

診療方針

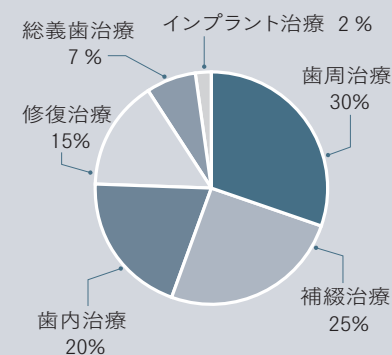
「単に虫歯を治すだけでなく、QOLを高め、人生を笑顔で過ごすサポートがしたい」という信念のもと

と、病態に対して「なぜそうなったのか」、「どうすれば改善されるのか」をつねに考え、口腔内だけでなく「人を診る」ことを心掛けている。

1 日々の臨床

市街地からほど遠い田園地帯であるが、子育て世帯が年々増加しており、老若男女さまざまな年代の患者が家族そろって受診されている。開院1年半、まずは基本治療をしっかりと行い、地域の患者の信頼を得ることを一番に考えている。

日常臨床で行う治療の内訳



初診時の状態



図1 術前顔貌。「写真は嫌いだから」と、はじめは口元しか撮らせてもらえなかった。本当は審美障害もすごく気にされていると感じた。



図2 a～c 術前口腔内写真と模型。

患者のバックグラウンド

患者

71歳の女性。介護職として老人保健施設で働いている。第一印象は暗く、元気がない感じ。声は小さくぼそそとして聞き取りづかった。

主訴

「入れ歯が安定せず、よく噛めないし吐きそうになるので、新しくつくってほしい」

歯科既往歴

それまでは、歯がグラグラになったから抜歯して義歯を追補する、染みるからセメントで歯頸部を覆う、動揺するから全部固定する、といった対症療法のみ受けてきた。

その他

「義歯をただ新しくするだけではなく、原因を探りそれを解決する治療をしましょう」とお話しすると、「時間がかかってもよいのできちんと治したい」とのこと。

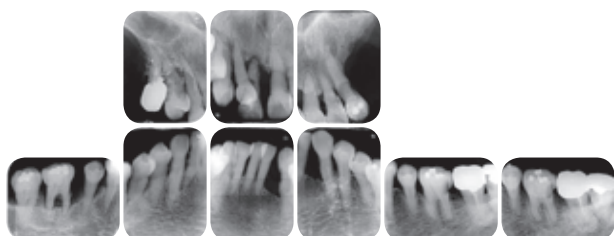


図3 術前デンタルエックス線写真。著しいフレアアウトにより、上顎は歯がフィルムに入りきっていない。全顎的な水平性骨吸収もあるが、とくに前歯部や下顎右側臼歯部などは、力の影響によるものと思われるサインがみられる。

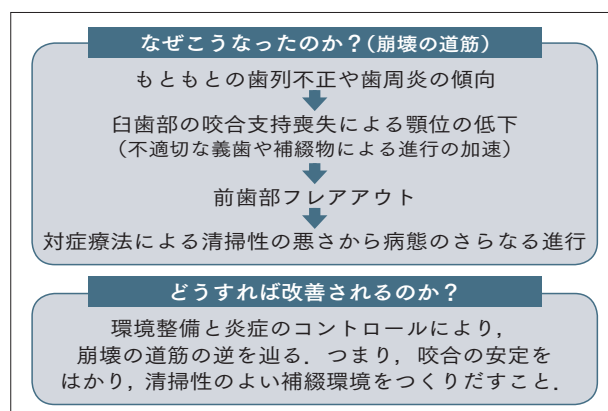


図4 現病歴の把握と治療方針の決定。

診査・診断，治療計画

■どのように診査を進め、診断したか：今から5年前、短期の非常勤勤務の医院での出会いであったため、はじめは筆者自身が「術後の責任がもてないのに、あまり治療介入するのはどうか」とためらっていた。しかし、患者とじっくり話すうちに「どうしても笑顔がみたい」と思い、治療に着手した。著しいフレアアウトにより、上顎は歯がフィルムに入りきっていない。全顎的な水平性骨吸収もあるが、とくに前歯部や下顎右側臼歯部などは、力の影響によるものと思われるサインがみられる(図3)。

■診査結果および治療計画説明時の患者の反応：基礎資料をみながら「なぜこうなったのか」を分析し、「どうすれば改善できるのか」を患者に説明した(図4)。

■治療の実際：まず力のコントロールとして、診査・診断によってあらかじめ設定していた基準をもとに、一気に咬合平面と咬合高径の改善をはかり、その後、歯周治療・根管治療等の炎症のコントロールを行っていった。患者は口腔内・顔貌の変化にともなってどんどん治療に積極的になり、最終的にはLOTやインプラント治療をも受け入れてくれた。



図 5 a | 図 5 b |
図 5 c | 図 5 d | 図 5 e | 図 5 f



図 5 a～f 即時義歯製作の過程。あらかじめ診査していた基準平面やリップサポートに合わせて即時義歯を製作。設定した咬合平面を維持できるように、下顎にはレジムプレートを製作。



図 6 a～c 基本治療終了時。力のコントロールが炎症のコントロールを後押ししている。



図 7 a～c 術前(a), 即時義歯装着時(b), LOT 時(c)の口腔内と患者の気持ちの変化。どんどん治療に積極的になり, 笑顔も増えた。



図 8 a～c 経過①。筆者出産のため、しばらく休みをいただく直前の状態。

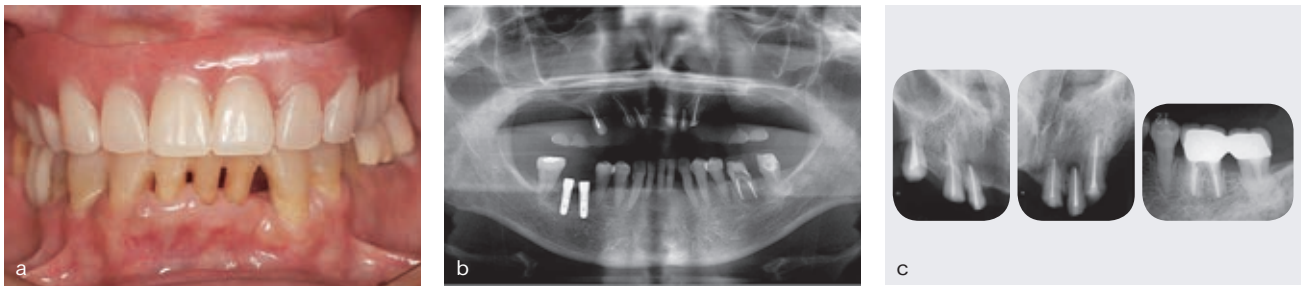


図 9 a～c 経過②. 術後 3 年, 咬合・歯周組織ともに安定している。

治療結果の自己評価と患者の様子

■**自己評価**：治療前の十分な考察が活かされ，早期に機能や審美性の改善を実感できたことが，その後の治療継続につながったと考える。

■**患者との信頼関係が築けたと感じた瞬間**：一気に咬合と審美性の改善をはかったとき，「うれしすぎてまっすぐ帰れない」と笑顔になり，「よくなっているのがわかるから，通うのが楽しみ」と実家の医院まで電車を乗り継いで来られるようになった。開業

医となった今でも，必ず月 1 回のメンテナンスに来院されている。

■**今後の課題**：勤務医時代はなかなか長期的予後を追うことができなかったが，今後はしっかりとメンテナンスを行い，患者と末永いおつきあいをしていきたい。健康寿命と QOL の向上に寄与すべく，咀嚼機能が全身の健康に及ぼす影響について見識を深めているところである。

message

先輩ドクターから

▶ ケースから感じること

この症例は初診からメンテナンスに至るまで，すべてにおいて基本に忠実に行われていることに感心した。

咬合の崩壊，歯周組織の崩壊，審美性の崩壊，そして心の崩壊まで持ち合わせた患者に対して，高度な技術や最新(出たばかり)の材料を駆使して大胆かつ派手に難症例に挑むかのごとく治療するのではなく，「なぜそうなったか」ということを病態だけでなく患者の内的な悩みに対する配慮まで含めて的確に診断されており，「どうすればよくなる」の答えである原因除去と環境整備に対する明確な基準に沿っての基本治療が確実に行われているがゆえに，簡単に治療しているかのごとく見えながら十分満足のいく結果が得られている。医療技術の押し売りや魅せるための症例作りでなく，患者の希望に沿った的確な処置が適材適所で行われている。治療が進むにつれて患者の心の変化(改善)や QOL に対する欲望が高まっていることがこれらを物語っている。

治療的内容的には上顎の残存歯に補綴処置を行わず，的確な歯内療法処置と歯周基本初期治療を行い，残根上義歯にしたことを大いに評価したい。



元 永三

福岡県開業・ゲン歯科クリニック

▶ さらに成長してもらうためのメッセージ

人は成長するためにいろいろな方法や道や形がある。私が思う成長とはまず自分づくりである。つぎに自分のイメージにあった師から学び，学んだことを疑わずに確実に実践する。そして実践したことを人に伝えながら，自分の形を作っていくことだと確信しているが，吹譚先生はまさに今この段階にいる。

吹譚先生が2007年に私のコースを受講して以来，早10年が過ぎようとしている。この10年間の変化と進化には多くの人が認めるところである。九州大学の病理学教室にて生体のもつ生物学的な基本概念と知識を学び，病態に対する診断力とメカニズムの把握を高める一方で，臨床を通じて病理学教室にて学んだ基礎学問を臨床と一致させる努力が治療結果に現れている。

これからも，思いやりの診える医療人としての姿勢と想いを今後も一貫して貫いてほしい。そしてさらに成長するためには吹譚景子イズムを試行錯誤しながら確立し，その結果がより確実にになったときに 1 つの治療スタイルとして歯科界に広めていくことが，歯科界のためであり，吹譚先生の成長につながると確信する。